

●4階の食堂での食事風景。



●この日の献立は麻婆豆腐と中華スープ。



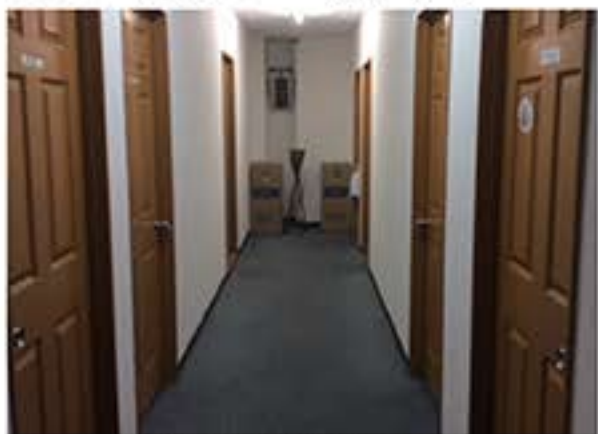
リバイブハウスの 寮生たちの日常

普段触れることもあまりない、更生施設ってどんなところだろう?と思う方も少なくはないかもしれません。

そこで今回はそんなリバイブ・ハウスの寮生たちの日常生活を少しご紹介したいと思います。

NPO法人リバイブ・ハウスの中心的な働きのひとつが全寮制の更生施設です。様々な問題を抱えながらも、更生プログラムに日々懸命に取り組み、皆一様に明るく、そして前向きに共同生活に励んでいます。

教会ビルの二つのフロアを使って設けられた寮には一人部屋や四人部屋などの居室が設けられ、現在スタッフや海外から来日している宣教師など合わせて全部で十五人ほどが生活しています。加えて居間、食堂や厨房、そして、もちろん複数のトイレやシャワー室。また勉強会や格闘技の練習などにも使用される多目的室などもレイアウトされます。



●男性寮生のための居室が並ぶ五階フロア。

●倒壊したブロック塀を人力で解体する。



助けられたから助けるんです! 震災復興ボランティア

ある地方に大きな地震によって被災した方々があり、クリスチャン系の団体が日本中にその復興のためのボランティアを募り、人力による支援部隊を立てあげました。

そして私たちリバイブ・ハウスのメンバーもそこに手を上げて、合計三回も被災地に乗り込みました。

地元の方々の方々から「教会さん」と呼ばれて親しまれ、暑いなか汗とほこりにまみれながら、ただただ自分の出来ることを探して、復興のために励みました。



●ひとつの家を完全に解体し終わって「やったぜ」の団。

リバイブ・ハウスのひとりひとりには元々、自分も助けられて生かされている。いま目の前に困って苦しんでいる人がいるならば、今度はその人を助けることが自分なすべきこと。だから頑張ったんです…。

地域のこどもの笑顔 「こども食堂」開始!

さまざまな事情を抱える子供たちに食事とふれあいを提供する「こども食堂」の地域活動をこどもたちが大好きなたこ焼きを提供することでリバイブ・ハウスも始めました。

大人になってから生活習慣を変えることは難しく、子どものころからの食育の必要性を感じ、子どもたちが安心して食事ができる居場所づくりを第一に心掛け、小学校や地域と連携するとともに実際に公園に足を運んで子どもたちと関係を作ることを行っています。

いつもベンチで寝ている子、ずっと同じ服装の子、水飲み場で服を洗う子、家族の関わりがない子、子どもたちと触れ合う中で様々な背景や暮らしが見えてきました。「こども食堂」を始めたころは、公園で声をかけても子どもたちには警戒心がありました。今では開催日以外にも居場所を求めてやってくる子どももいます。



●いろんなこどもたちがやって来るようになりました。

こども食堂
たこ焼きハウス

たこ焼き

JDCビル4F

OPEN: 毎週土曜日 13時~15時
場所: 中央区高津1-3-6
JDCビル4F 食堂

子供: 無料
大人: 協賛金
こども食堂を通しての、健全な子供の育成にご協力下さい

REVIVE HOUSE

〒547-0012 大阪市中央区高津1-3-6 JDCビル4F
TEL: 06-250-5042 FAX: 06-250-5043

●こども食堂のチラシ「たこ焼きハウス」です。

中央区役所との連携で
街をきれいにしよう
心もきれいにしよう

リバイブ・ハウスのスタッフと寮生たちが毎週月曜日の朝、施設の前を通る大通り、千日前通りの谷町九丁目までを清掃しています。

このお揃いのあざやかな黄色のベストは大阪市中央区役所の市民協働課の「まち魅力推進グループ」から提供の物品で、合わせてこの奉仕活動で使用するほうきとちりとリヤゴミ袋なども支給されています。

大阪の街や道路はいたるところにゴミが捨てられています…。この活動によって道路を美化し、黄色のベストによって街にゴミを捨てないことを啓発しているわけですね。

奉仕活動をおして更生施設の寮生たちが自分たちも社会の一員であることを自覚すること、そしてその社会に貢献できる喜びを知ることが大切です。

